

第6章 高等学校教育

第1節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

年度 区分		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
全 日 制	本 校	85	85	85	85	85	85	85	85	84	83
	分 校	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
定 時 制	独 立	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5
	併 置	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分 校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定した(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

年度 区分		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
卒業者数 (A)		28,988	28,448	27,482	26,868	25,404	25,067	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930
進学志願者数 (B)		27,995	27,545	26,622	26,068	24,653	24,392	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305
進学者数 (C)		27,717	27,382	26,395	25,947	24,617	24,441	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529
進学志願率 (B/A)		96.6	96.8	96.9	97.0	97.0	97.3	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2
進学率 (C/A)		95.6	96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2
入学率 (C/B)		99.0	99.4	99.1	99.5	99.9	100.2	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1

(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したこと(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より123名増加し、進学率は0.2ポイントアップし、入学率も0.2ポイントアップした。

平成22年度の進学者の内訳は次の通りである。

高等学校全日制 20,247名 (94.0%)

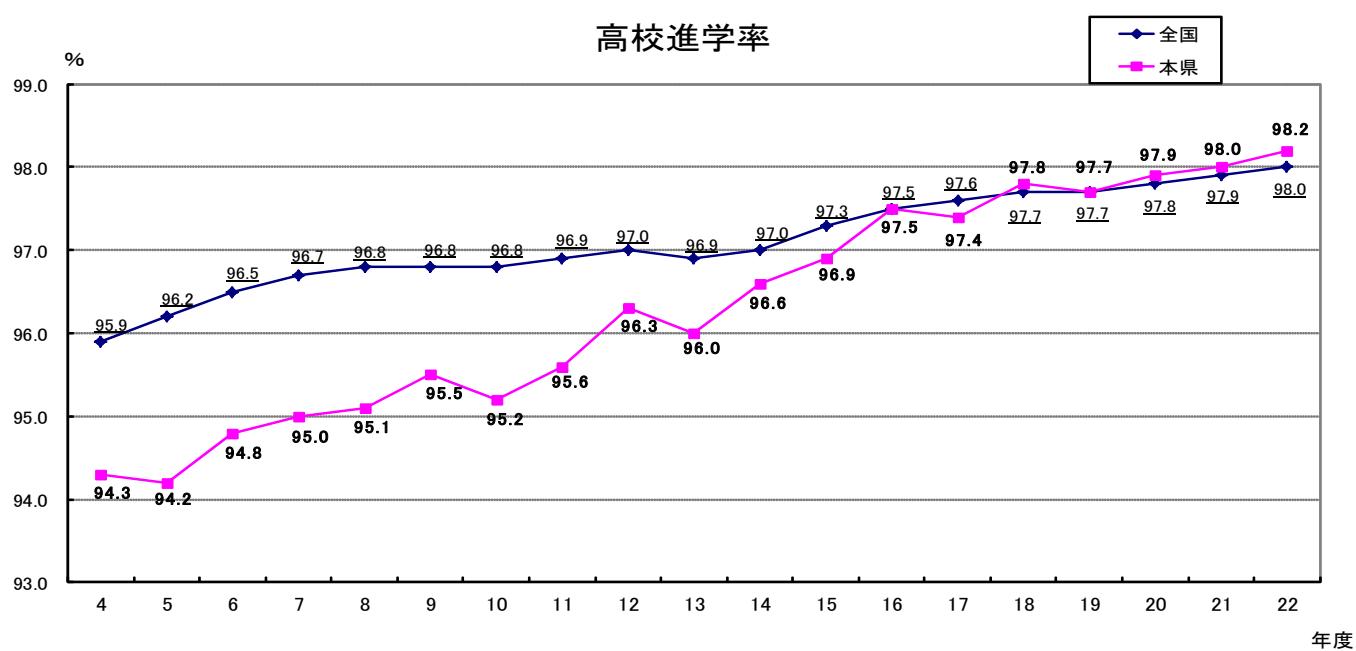
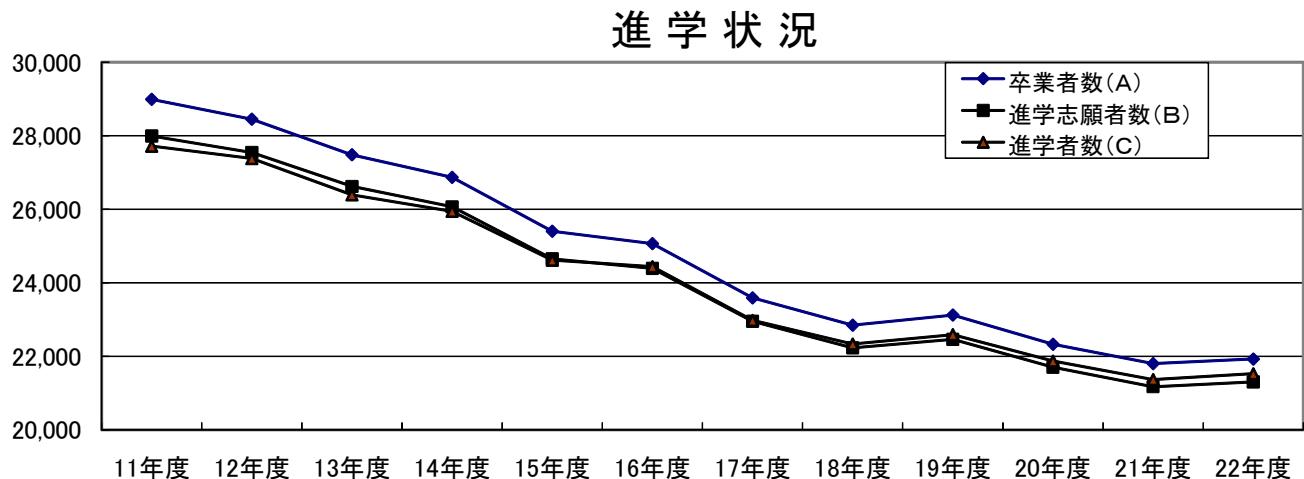
高等学校定時制 357名 (1.7%)

高等学校通信制 513名 (2.4%)

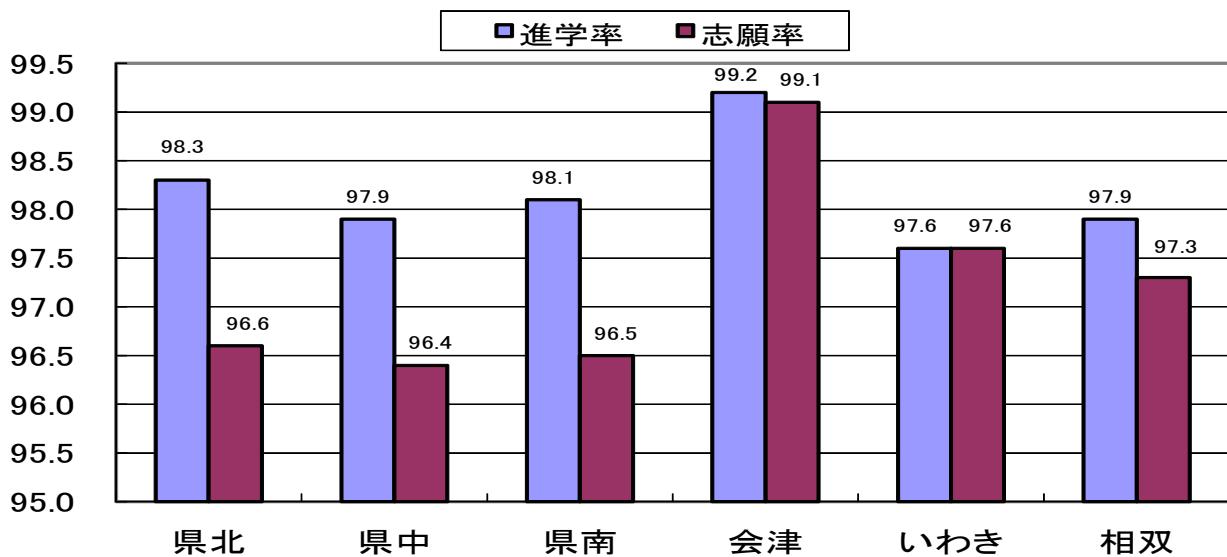
高等専門学校 252名 (1.2%)

特別支援学校高等部 160名 (0.7%)

ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移

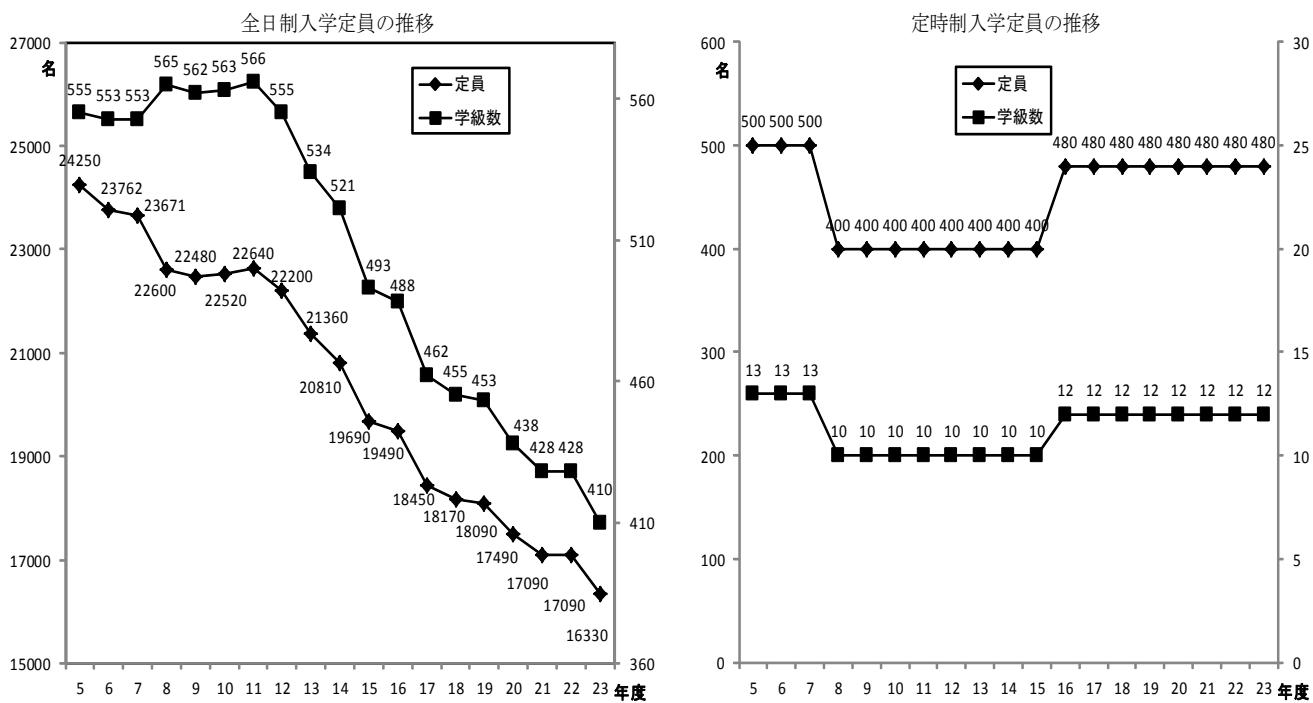


イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全 日 制	定 時 制	学科の区分	全 日 制	定 時 制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業者数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
		A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	D 入学者数	D/C (%)
13	27,482	21,360	77.7	23,771	86.5	111	20,712	87.1
14	26,868	20,810	77.5	23,458	87.3	113	20,246	86.3
15	25,404	19,690	77.5	23,303	91.7	118	19,268	82.7
16	25,067	19,490	77.8	20,659	90.4	116	18,988	83.8
17	23,593	18,450	78.2	20,634	87.5	113	17,928	86.9
18	22,851	18,170	79.5	19,988	87.5	113	17,508	87.6
19	23,127	18,090	78.2	20,130	87.0	111	17,530	87.1
20	22,333	17,490	78.3	19,368	86.7	111	16,934	87.4
21	21,807	17,090	78.4	18,975	87.0	111	16,666	87.8
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4

(5) 県立高等学校生徒数 (22.5.1現在)

学科の区分	課 程	全 日 制	定 時 制			専 攻 科	合 計	通 信 制
			学 年 制	单 位 制	計			
普通科	男	12,419	210	326	536		12,955	1,341
	女	13,305	197	506	703		14,008	1,376
	計	25,724	407	832	1,239		26,963	2,717
農業に 関する 学科	男	1,619					1,619	
	女	1,341					1,341	
	計	2,960					2,960	
工業に 関する 学科	男	6,108	83		83		6,191	
	女	543	15		15		558	
	計	6,651	98		98		6,749	
商業に 関する 学科	男	1,768					1,768	
	女	3,519					3,519	
	計	5,287					5,287	
家庭に 関する 学科	男	16					16	
	女	218					218	
	計	234					234	
水産に 関する 学科	男	306				42	348	
	女	57				2	59	
	計	363				44	407	
理数に 関する 学科	男	278					278	
	女	184					184	
	計	462					462	
文理に 関する 学科	男	447					447	
	女	627					627	
	計	1,074					1,074	
国際文化 に関する 学科	男	52					52	
	女	188					188	
	計	240					240	
国際・ス ポーツに 関する学科	男	157					157	
	女	169					169	
	計	326					326	
国際科学 に関する 学科	男	183					183	
	女	457					457	
	計	640					640	
英語に 関する 学科	男	85					85	
	女	277					277	
	計	362					362	
体育に 関する 学科	男	86					86	
	女	30					30	
	計	116					116	
美術に 関する 学科	男	13					13	
	女	104					104	
	計	117					117	
総合学科	男	1,807					1,807	
	女	2,834					2,834	
	計	4,641					4,641	
合 計	男	25,344	293	326	619	42	26,005	1,341
	女	23,853	212	506	718	2	24,573	1,376
	計	49,197	505	832	1,337	44	50,578	2,717

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年 度											
		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
入 学 者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	238	262	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校	-	-	297	269	238	242	263	253	239	262	278	290
	計	238	262	297	269	238	242	263	253	239	262	278	290

区分	学校	年 度											
		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
卒 業 者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	182	165	192		-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校				243	208	241	233	207	204	200	218	228
	計	182	165	192	243	208	241	233	207	204	200	218	228

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等学校																			
		全日制・定時制										通信制									
	課程	年度職種	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	13	14	15	16	17	18	19	20	21
教員	校長	86	86	86	87	87	87	87	87	86	85										
	教諭等	4242	4213	4095	4052	3922	3853	3790	3730	3674	3617	37	37	37	37	37	36	37	37	37	37
	養護教員	102	110	114	120	123	120	119	116	114	113										
	補充教員	184	176	125	132	151	155	161	167	155	148	1	1								
	講師																				
	寄宿舎指導員	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5										
	実習助手	400	395	379	370	359	353	351	346	334	330										
事務職員	計	5020	4985	4804	4766	4647	4573	4513	4451	4368	4298	38	38	37	37	37	36	37	37	37	37
	事務職員	298	293	285	285	276	274	272	266	263	262	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
雇用	技能員	1	1	1	1	1															
	学校司書	72	72	68	68	66	65	65	64	61	62										
	用務員	72	69	65	59	58	57	56	56	56	54										
	介護技師	18	18	18	19	18	18	17	16	16	14										
	栄養士	8	5	5	5	5	5	5	4	4	4										
	調理給食員	6	6	5	5	5	4	4	4	4	4										
練習船	計	177	171	162	157	153	149	147	144	141	138										
	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
合計	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
	合計	5517	5471	5273	5230	5098	5018	4954	4883	4794	4720	44	44	43	43	43	42	43	43	43	43

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成22年度の高等学校教職員定数は、前年度比59人減の4,649人となった。このうち、教諭等は、前年度比57人減の3,654人である。

また、特殊教育については、前年度比80人増の1,485人となった。このうち、教諭等は、前年度比71人増の1,268人となった。

ア 新採用について

平成22年度は94名（国語16名・地理歴史9名・公民2名・数学9名・理科16名・保健体育12名・音楽2名・美術1名・英語9名・家庭1名・農業4名・工業9名・商業4名）の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成22年度に実施した平成23年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験の高等学校志願者数は、前年度比145名減の1,183名であったが、一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は101名（前年度比3名減）となり、そのうち辞退者を除く97名（前年度比3名増）が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から7名、教育庁関係から現場復帰による3名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性を生かせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう

努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、本庁及び校長会との密接な連携のもとに、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて585名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成22年度県立学校教員異動基準

ア 一般基準

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(イ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が担当年数（3年以上）勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(ウ) 同一校には原則として、最低3年は勤務するものとする。

(エ) 2親等以内の者は、原則として、同一校勤務をさける。

イ 勤続年数による基準

次に該当する者は異動の対象とする。

- (ア) 採用後ひきつづき同一校に3年以上勤務した者
- (イ) 同一校に8年以上勤務した者
- ウ 地区及び学校群による基準
 - 教職員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、各地区ごとに所在する学校を地理的特殊性を考慮して、A・B・C 3群に分類し異動を促進する。
 - A・B・C各群の学校は別表①のとおりとする。
 - (ア) 会津地区の4校(川口・田島・南会津・只見)、県南地区の5校(湖南・塙工・棚倉・東白川農商・東白川農商鮫川)、相双地区の3校(浪江津島・富岡川内・相農飯館)は、それぞれ1地区とみなす。
 - (イ) 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。
 - (ウ) 群の取り扱いの変更は、別表②の適用年度以降の人事異動該当者について適用する。
 - (エ) 昭和44年度以降採用者は、原則として、次の条件を満たすよう勤務させるものとする。
 - a 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。
 - b A・B 2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。
 - (オ) B・C群の学校に採用された者は、原則としてA群の学校に勤務するものとする。
 - (カ) 同一校群内または学校群間の異動については、次の点に留意する。
 - a A群については、原則として、へき地間、分校間の異動は行わない。
 - b B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。
 - c C群については、同一市内間の異動は行わない。
 - (キ) 職業に関する学科の教員で、同一校勤続8年以上の者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、もとの地区内へ転出させることができる。
- エ 平成21年度以降の採用者についての基準(以下「新基準」という。)
 - (ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

 - a 初任者
 - b 異動2校目において3年以上勤務した者(以下「若年者」という。)
 - c 永年者
 - (イ) 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、I・II群に分類し異動を促進する。I・II群の学校は別表

- ③のとおりとする。
- a 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、若年者及び永年者が中通り地域の4校(湖南・塙工・修明・修明鮫川)、会津地域の4校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の3校(浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館)に勤務した場合の勤務年数は、原則として3年以上5年以内とする。
- b 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、II群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてI群の学校に勤務するものとする。

ただし、II群普通系からII群専門系への異動、II群専門系勤務者のうち直近の勤務がI群校の者のII群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはII群普通系内の異動も可とする。
- c 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。
- オ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは2(2)ウの別表①及び(ウ)の別表②も準用し、(2)ウ(エ)を満たす者は、エ(イ)aの規定を満たす者とみなす。
- カ 寄宿舎指導員については、原則としてア、イ、ウに準ずるが、採用後20年以内に2地区の学校に勤務するものとする。
- キ 過員解消のための異動は、全県的な立場で優先的に取り扱う。
- ク 教員人事公募選考制度については、別に定める。

別表① 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
県 北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橋 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笛生養護 須賀川養護(医大)
県 南	安積(御館) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 壙工業 修明 修明(鮫川)	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 西郷養護 石川養護
会 津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
い わ き	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相 双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 富岡(川内) 相馬農業(飯館)	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高商業 小高工業	相馬 相馬東 原町	富岡養護

別表②

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	52	白河実業	B	61	棚倉	A	平成9
福島明成	B	56	川俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福島北	B	〃	福島商業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁川	A	平成8	光南	B	〃
磐城農業	A	〃	船引	A	〃	石川	A	〃
勿来工業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双葉翔陽	A	〃	勿来	A	〃			
猪苗代	A	58	相馬農業	B	〃			

別表③

群 地域・地区	I	II	
中 北	福島工業 (定) 福島北 川俣 梁川 保原 保原 (定) 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系	福島 橘 福島西 福島東 福島南
		専門系	福島商業 福島明成 福島工業
通 中	安積(御館) 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
		専門系	郡山商業 郡山北工業
り 南	光南 壙工業 修明 修明 (鮫川) 白河二	普通系	白河 白河旭
		専門系	白河実業
会 津	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳
	会津学鳳中学校	専門系	若松商業 会津工業
浜 通	湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
		専門系	平工業 平商業 いわき総合
り 相 双	浪江 浪江 (津島) 富岡 富岡 (川内) 双葉翔陽 相馬農業 相馬農業 (飯館) 小高商業 小高工業 新地	普通系	双葉 相馬 原町
		専門系	相馬東

(3) 教頭複数制実施校(平成22年度実績)

福島	橘	福島西	福島北
川俣	保原	安積	安積黎明
郡山東	郡山北工	郡山	須賀川
岩瀬農業	光南	白河	白河旭

白河実業	修明	田村	葵
会津学鳳	会津工業	喜多方桐桜	磐城
磐城桜が丘	平工業	平商業	いわき総合
湯本	勿来工業	原町	郡山萌世
いわき翠の杜			
盲	聾	大笹生養護	郡山養護
あぶくま養護	須賀川養護	会津養護	平養護
いわき養護			

3 学校の設置及び統廃合

-公立高等学校の設置・廃止等(平成23年度) -

(1) 学校の新設・廃止

学校廢止 全日制 1 校

富岡高等学校・川内校

(2) 学級増 なし

(3) 学級減 全日制 18 校 18 学級

課程	学校名	内 容
全日制	福島北	総合学科1学級
	福島東	普通科1学級
	福島南	国際文化科1学級
	川俣	普通科1学級
	二本松工業	情報システム科1学級
	郡山商業	国際経済科1学級
	田村	普通科1学級
	白河旭	普通科1学級
	会津	普通科1学級
	桑	普通科1学級
	喜多方	普通科1学級
	平商業	流通ビジネス1学級
	湯本	普通科1学級
	勿来	普通科1学級
	四倉	普通科1学級
	浪江	普通科1学級
	双葉翔陽	総合学科1学級
	相馬東	総合学科1学級

(4) **募集停止** 全日制 1 校 1 学級

課程	学校名	内 容
全日制	会津農林	生活經營科
(5) 35人学級編 全日制 3校 6学級		
課程	学校名	内 容
全日制	川口 南会津 只見	普通科2学級 普通科2学級 普通科2学級

(6) 課程廃止 なし

(7) 学科転換・学科改編 なし

(8) 学科名変更 なし

(9) 校名変更 なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業 田島 富岡 相馬東	塙 田島、檜沢、荒海 富岡第一、富岡第二、檜葉、広野 玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12) 定時制・通信制 変更なし

(13) 専攻科 変更なし

第2節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、ティーム・ティーチングや習熟度別学習指導などを通じて生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

学習指導課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、県立高校教諭38名を学校教育指導委員に指名し、各教科の指導活動の充実強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 文部科学省指定研究校(研究開発学校)における研究実践の推進を図り、その成果の普及に努めた。

ア 教科・科目の目標を明確にとらえ、指導内容を重點化して基礎学力の充実を図ること。

バ 個性の伸長を図るために、一人一人の生徒の個性の理解に努めるとともに、指導の改善を図るなど、学習指導の個別化に努めること。

カ 学習効果を高めるための評価の方法について研究し、改善を図ること。

ダ 分かりやすく、かつ質の高い授業の構築を目指して、授業の改善を図ること。

イ 学力向上を図る。

「英語・数学グレードアップ事業」を実施し、英語・数学の学力を向上させ、国立大学等への合格者の増加を図る。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導・特別活動担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通じ進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実並びに情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に發揮されるように努めた。

(エ) 経験者研修Ⅰ・Ⅱの対象教員等の授業改善を図るために、指導主事による学校訪問を実施した。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用について、適正に行われるよう努めた。

- (イ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。
- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。
- ウ 勤務体制の確立
 - 教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。
- エ 使命感の高揚
 - (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
 - (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事務防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
 - (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5) 教育環境の整備充実

- ア 学習環境の整備充実
 - (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
 - (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
 - (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。
- イ 学校事故防止の徹底
 - (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
 - (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
 - (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6) 県立高等学校入学者選抜

- ア 基本方針

平成23年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

 - (ア) I 期選抜

I 期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

 - a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。
 - b I 期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や

- 学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。
- c I 期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。
- (イ) II 期選抜

II 期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

 - a 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とする。
 - 定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じができるものとする。
 - b 学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。
 - c 学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。
 - d 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。
 - また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。
 - e II 期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。
 - ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。
 - 具体的には、次のようにして合否判定を行う。
 - (a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいづれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。
 - (b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいづれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変え

る場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) III期選抜

III期選抜は、I期選抜、II期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、I期選抜、II期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、I期選抜、II期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b II期選抜における学力検査の成績は、III期選抜の資料とはしないものとする。

c III期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲を見る内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(イ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が地域の特性

に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、I期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のI期選抜へ出願することはできない。

e 実施期日については、I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月9日 県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議（第1回）

7月15日 同上（第2回）

8月18日 同上（第3回）

8月18日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出

10月12日～10月15日

県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月15日 平成23年度入学者募集定員決定

(ア) I期選抜関係日程

1月18日～1月21日 出願書類受付

2月1日（2日） 面接等

2月4日 合格内定通知

2月8日～2月10日 入学確約書提出

3月14日 合格者発表

(イ) II期選抜関係日程

2月14日～2月17日 出願書類受付

2月18日～2月22日 出願先変更

2月23日～2月24日 調査書提出

3月8日 学力検査

3月8日又は9日 面接等

3月16日 合格者発表（中通り及び会津地区）

3月22日 合格者発表（浜通り）

(ウ) III期選抜関係日程（中通り及び会津地区のみ実施）

3月23日～3月25日 出願書類受付

3月28日 出願先変更

3月30日 面接等

3月31日 合格者発表

(イ) 連携型選抜関係日程

1月18日～1月21日 出願書類受付
 I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日 面接等
 2月4日 合格内定通知
 2月8日～2月10日 入学確認書提出
 3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程
 2月14日～3月25日 出願書類受付
 4月8日 合格者発表(個人宛通知)

ウ 志願者数・合格者数

(ア) I期選抜及び連携型選抜の志願者数・合格者数は、平成23年2月10日現在の調査による。
 (イ) II期選抜の志願者数は平成23年2月22日現在の調査による。
 (ウ) II期選抜の合格者数は平成23年4月12日現在の調査による。
 (エ) III期選抜の合格者数は平成23年4月13日現在の調査による。

(カ) 特例による通信制の課程選抜日程

4月11日～4月28日 出願書類受付
 5月2日 合格者発表(個人宛通知)
 5月2日～5月9日 転学手続き
 5月13日～5月17日 転入学検査
 5月19日 合格者発表(学校宛通知)

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。
 ()内は平成22年度入試のもの。

(1) I期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	9,650	2,402	1,663	2,401	4,064	1.69	970	1,574	2,544
農業	1,040	426	297	372	669	1.57	209	238	447
水産	160	56	75	14	89	1.59	52	12	64
工業	2,280	990	1,356	144	1,500	1.52	930	104	1,034
商業	1,720	658	347	893	1,240	1.88	177	538	715
家庭	40	14	1	16	17	1.21	1	15	16
総合	1,440	495	264	598	862	1.74	167	367	534
計	16,330 (17,090)	5,041 (5,281)	4,003 (4,538)	4,438 (4,925)	8,441 (9,463)	1.67 (1.79)	2,506 (2,604)	2,848 (3,025)	5,354 (5,629)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	440	138	83	107	190	1.38	44	84	128
工業	40	12	11	2	13	1.08	9	2	11
計	480 (480)	150 (150)	94 (112)	109 (146)	203 (258)	1.35 (1.72)	53 (56)	86 (92)	139 (148)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜定員	志願者数			志願倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	240	126	73	69	142	1.13	67	65	132
工業	120	36	7	3	10	0.28	7	3	10
総合	240	70	38	51	89	1.27	26	44	70
計	560 (600)	232 (246)	118 (144)	123 (152)	241 (296)	1.04 (1.20)	100 (103)	112 (131)	212 (234)

(3) II期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	9,650	6,974	3,791	3,828	7,619	1.09			6,266
農業	1,040	593	435	292	727	1.23			553
水産	160	96	71	15	86	0.90			69
工業	2,280	1,236	1,290	112	1,402	1.13			1,156
商業	1,720	1,005	445	755	1,200	1.19			959
家庭	40	24	3	15	18	0.75			18
総合	1,440	747	379	446	825	1.10			729
計	16,330 (17,090)	10,675 (11,142)	6,414 (6,889)	5,463 (5,756)	11,877 (12,645)	1.11 (1.13)			9,750 (10,260)

※避難指示の対象となった地域の県立高等学校については、合否判定不能のため、全員合格とした。

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通	440	312	129	128	257	0.82			179
工業	40	29	20	1	21	0.72			17
計	480 (480)	341 (332)	149 (198)	129 (131)	278 (329)	0.82 (0.99)			196 (199)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	2	1	3	2	1	3
福島南	国際文化	若干名	0	3	3	0	3	3
あさか開成	国際科学	若干名	0	1	1	0	1	1
光南	総合	若干名	2	0	2	2	0	2
会津学鳳	総合	若干名	2	0	2	2	0	2
湯本	英語	若干名	1	0	1	1	0	1
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) III期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	527	143	68	211	97	42	139
農業	23	12	0	12	6	0	6
水産	0	0	0	0	0	0	0
工業	68	20	5	25	17	5	22
商業	24	1	4	5	0	2	2
家庭	6	1	3	4	1	2	3
総合	26	7	4	11	7	4	11
計	674 (882)	184 (324)	84 (205)	268 (529)	128 (225)	55 (165)	183 (390)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通	80	21	10	31	16	8	24
工業	12	9	2	11	7	2	9
計	92 (133)	30 (43)	12 (33)	42 (76)	23 (25)	10 (24)	33 (49)

※いわき・相双地区のIII期選抜は実施せず。

◇ III期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科、国際・スポーツ科が含まれる。

() 内は平成22年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜合格内定者数	連携型選抜合格内定者数	II期選抜合格者数	III期選抜合格者数	合格者数	
						男	女
普通科等	9,650	2,544	132	6,266	139		
農業	1,040	447		553	6		
水産	160	64		69	0		
工業	2,280	1,034	10	1,156	22		
商業	1,720	715		959	2		
家庭	40	16		18	3		
総合	1,440	534	70	729	11		
計	16,330 (17,090)	5,354 (5,629)	212 (234)	9,750 (10,260)	183 (390)	(8,596)	(7,917)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜合格内定者数	連携型選抜合格内定者数	II期選抜合格者数	III期選抜合格者数	合格者数	
						男	女
普通	440	128		179	24		
工業	40	11		17	9		
計	480 (480)	139 (148)		196 (199)	33 (49)	(188)	(208)

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

名称	期日	期間	会 場	参加者
校長研修会	5.10 ～5.11	2日	教育センター	新任県立学校長 18名
教頭研修会	5.17 ～5.18	2日	教育センター	新任県立学校教頭28名
教職経験者 研修Ⅲ (中堅教員 研修)	10.27 ～ 10.29	3日	教育センター	教務主任、学年主任等の 中堅教員(学校運営上、 主要な職にある者) 71名
初任者研修 (第1次)	4.21 ～4.23	3日	教育センター	21年度高等学校初任 者研修対象教員 85名
〃 (第2次)	2.15 ～2.17	3日	教育センター	
〃 (教科別 研修)	(1班) 9.15 ～9.17	3日	・農業・水産 (磐城農業) ・理 科 (川俣) ・国 語 (小高商業) ・数 学 (葵) ・商 業 (小名浜) ・地歴・公民 (船引)	
	(2班) 9.29 ～10.1	3日	・英語 (福島南) ・工業 (平工業) ・保健体育 (勿来)	
	(3班) 10.27 ～10.29	3日	・美術 (相馬・相馬東) ・音 楽 (平商業・いわ き光洋) ・家 庭 (只見)	
〃 (基本研修)	4.5 ～4.6	2日	教育センター	
〃 (地区別 研修)	4月～ 12月	14日	各地区施設 学校 等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	180 時間	各所属校	

名 称	期日	期間	会 場	参加者
経験者研修 I	(1班) 10.18 ～10.20 (2班) 10.20 ～10.22	3日	教育センター	県立学校教職経験5年 を経過した者 46名
各所属校に おける研修	5月 ～12月	5日 程度	各所属校	
経験者研修 II (第1次) 共 通	4.13	1日	教育センター	県立学校教職経験10年 を経過した者 73名
教科指導 I	(1班) 7.14 ～7.15	2日		
教科指導 II	(1班) 2.7 ～2.8 (2班) 2.9 ～2.10			
授業の実践 I	8月 ～12月	1日	各会場校	
各所属校に おける研修	4月 ～1月	15日 程度	各所属校	
社会体験研修 (4地区)	4月 ～1月	3日	各所施設等	
	8.5	1日	磐城農業高校	
新任教務主 任研修会	8.20	1日	福島工業高校	新任教務主任のみ
	8.20	1日	安積黎明高校	22名

(2) 教員体験研修 (2か月)

派遣者及び派遣先

郡山萌世高等学校	教諭	荒 敏子	ハマツ観光株式会 社
----------	----	------	---------------

3 教育課程

(1) 高等学校教育課程説明会

平成22年度は実施せず。

(2) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨の説明及び必要な研究協議を行い、高等学校教育の改善充実を図る。

イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参 加 者 数
いわき・相双	8月3日	双葉翔陽高等学校	305
県中・県南	8月4日	清陵情報高等学校	446
県 北	8月5日	福島南高等学校	273
会津・南会津	8月6日	会津学鳳高等学校	208
合 計			1,232

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部 会	参 加 者 数	部 会	参 加 者 数
総 則	60	外 国 語	150
国 語	136	家 庭	96
地理歴史	79	情 報	32
公 民	21	農 業	50
数 学	144	商 業	118
理 科	96	水 産	11
保健体育	101	福 祉	3
音 楽	29	計	1,232
美術・工芸	13		

(3) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

農 業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
	情報技術	郡山北工業、平工業、会津工業
工 業	情報電子	清陵情報、福島工業
	情報システム	二本松工業
	情報処理	福島商業、郡山商業、清陵情報、小高商業
	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
商 業	情報ビジネス	白河実業、若松商業
	経営情報	福島商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜・平商業
水 産	情報通信	いわき海星

(4) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 29名

イ 配 置 ○県内21の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内7つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任校における指導

4 学力向上対策等

(1) 平成22年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定期 年度	研究主題
ス 一 パ 一 サイエンス ハイスクール	福島	19 ～ 23	大学や研究機関と連携して科学技術分野の先端的な研究にふれながら、地球的な視野で人間・社会・自然のさまざまな事象を科学的に探究しようとする態度を育成するとともに、過去の真理探究の歴史と人類全体の進歩への情熱に学んだ豊かな教養と人間性、倫理性をもった人材を育成するための研究
	会津学 鳳	22 ～ 26	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会に夢ひらく豊かな創造性を持ち科学技術分野で活躍できる人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発

(2) 学力向上プロジェクト事業（英語・数学グレードアップ事業）

ア 学力向上推進プラン

高等学校において、英語、数学の学力の向上を図り、国公立大学等への合格者数を増やす。

(対象校 14校)

福島、橘、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、会津学鳳、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、原町

イ 合同学習会

震災のため実施できず。

(3) 「確かな学力」向上プラン

ア 「確かな学力」向上のための基礎力育成プラン

高等学校において、多様な進路希望を持つ生徒が「確かな学力」だけでなく社会人としての基礎力を育成し、望ましい勤労観、職業観を育む。

(対象 25 校)

福島明成、梁川、安達東、清陵情報、長沼、光南、白河旭、塙工業、船引、喜多方、喜多方東、猪苗代、大沼、川口、坂下、田島、南会津、只見、小名浜、いわき海星、遠野、富岡、富岡川内、相馬東、新地

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内 7 地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導(計画・随時)
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携
- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

スクールカウンセラー配置校(45 校)

福島明成、福島工業、福島北、福島東、川俣、梁川、保原、二本松工業、安達東、本宮、安積(御館校含む)、あさか開成、湖南、須賀川桐陽、清陵情報、長沼、岩瀬農業、光南、白河実業、修明(鮫川校含む)、石川、船引、小野(平田校含む)、葵、田島、喜多方東、喜多方桐桜、耶麻農業、川口、会津農林、いわき総合、小名浜、いわき海星、磐城農業、勿来、勿来工業、遠野、四倉、浪江(津島校含む)、富岡(川内校含む)、双葉翔陽、相馬農業(飯館校含む)、新地、郡山萌世、いわき翠の杜

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業者数

課程 \ 性別	男	女	計
全日 制	8,276	7,772	16,048
定 時 制	121	160	281
通 信 制	92	168	260
計	8,489	8,100	16,589

イ 卒業式実施期日

月 日 \ 種別	全日 制	定 時 制	通 信 制	計
3 月 1 日	88	5	0	93
3 月 2 日	1	1	0	2
3 月 3 日	0	1	0	1
3 月 6 日	0	0	1	1
計	89	7	1	97

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3 月 1 日 小名浜高等学校

〃 いわき海星高等学校

県議会議長臨席校 3 月 1 日 安積高等学校

県議会副議長臨席校 3 月 1 日 葵高等学校

県教育長臨席校 3 月 1 日 富岡高等学校川内校

(2) 修学旅行

県立高等学校()は前年度

ア 参加生徒総数 15,807 人 (16,379 人)

イ 参 加 率 92.0 % (96.3 %)

ウ 行 先

行先	北海道	関東	奈良 京都	近畿 中部	中国 近畿	九州	沖縄	海外
校数	5 (5)	1 (0)	31 (37)	0 (0)	17 (10)	4 (4)	29 (33)	6 (4)

エ 航空機利用 61 校 (67 校)

北海道方面 5 校 (5 校)

大阪方面 17 校 (21 校)

九州方面 4 校 (4 校)

沖縄方面 29 校 (33 校)

海 外 6 校 (4 校)

オ 泊 日 数

1 泊 2 日 0 校 (0 校)

2 泊 3 日 4 校 (4 校)

3 泊 4 日 76 校 (76 校)

4 泊 5 日 13 校 (13 校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 125,000 円 (120,687 円)

最低額 69,294 円 (64,864 円)

平均額 93,267 円 (95,440 円)

キ 引率責任者

校 長 39 校 (35 校)

教 頭 54 校 (58 校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成22年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成22年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	佐久間 智子	教諭	福島明成高等学校	静岡県三島市商工会議所	8月9日～8月13日
工業	佐藤 智美	教諭	勿来工業高等学校	富士ソフトアキバプラザ	8月3日～8月6日
商業	中島 裕	教諭	小高商業高等学校	千葉商科大学	7月26日～7月30日
水産	菅原 孝夫	実習講師	いわき海星高等学校	茨城県立海洋高等学校	8月23日～8月27日
家庭	清野志保	教諭	小野高等学校	家庭部会事務局	7月20日～7月23日
情報	吉田克弘	教諭	岩瀬農業高等学校	千葉商科大学	7月26日～7月30日

イ 平成22年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	小野浩嗣	教諭	白河実業高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	8月2日～8月4日
家庭	水添智子	教諭	湯本高等学校	国立オリンピック記念青少年総合センター	7月26日～7月27日

ウ 平成22年度産業教育、理科教育において指導的立場にある教員の派遣研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
理科	猪股一教	教諭	喜多方高等学校	福島大学	7月1日～9月30日
理科	高橋信幸	教諭	浪江高等学校津島校	福島大学	7月1日～9月30日

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

福島商業高等学校	公民
福島明成高等学校	農業
福島北高等学校	国語
福島南高等学校	体育、商業
川俣高等学校	公民
保原高等学校	学校保健
安達高等学校	国語、体育
二本松工業高等学校	工業
安積黎明高等学校	地理歴史、理科
須賀川桐陽高等学校	数学
清陵情報高等学校	工業
岩瀬農業高等学校	英語
白河高等学校	理科
葵高等学校	数学
喜多方高等学校	地理歴史
喜多方東高等学校	国語
川口高等学校	家庭
会津農林高等学校	体育
田島高等学校	英語
平工業高等学校	工業
いわき光洋高等学校	理科
勿来高等学校	国語、理科
勿来工業高等学校	工業
遠野高等学校	家庭
双葉高等学校	数学
浪江高等学校	美術
双葉翔陽高等学校	商業
相馬東高等学校	英語
原町高等学校	体育
相馬農業高等学校	農業
須賀川養護学校郡山分校	学校保健

9 県立高等学校学校教育指導委員

教科名	氏 名	職名	学校名
国 語	佐藤 幸雄	教諭	安積高等学校
	佐々木 義史	教諭	双葉高等学校
	本田 一弘	教諭	葵高等学校
地理・歴史	緑川 悟史	教諭	福島高等学校
	小沼 仁一	教諭	磐城桜が丘高等学校
公 民	西田 直人	教諭	福島明成高等学校
	目黒 徹	教諭	安積高等学校
数 学	滝沢日佐人	教諭	郡山東高等学校
	佐藤 和義	教諭	相馬農業高等学校飯館校
	古川 和則	教諭	喜多方高等学校
理 科	佐藤 伸郎	教諭	福島東高等学校
	平山 勝則	教諭	小野高等学校平田校
	猪俣 豊	教諭	葵高等学校
	伊藤 哲章	教諭	磐城農業高等学校
保健体育	佐藤 真一	教諭	福島明成高等学校
	佐藤 雄治	教諭	双葉高等学校
	佐藤 理恵	教諭	福島高等学校
	江本 恵	教諭	喜多方高等学校
芸術(美術)	真柴 穀	教諭	本宮高等学校
	(音楽) 草野 嘉津子	教諭	郡山北工業高等学校
	(書道) 佐藤 真紀	教諭	会津学鳳高等学校
英 語	内海 雅伸	教諭	白河実業高等学校
	田中 幹大	教諭	会津学鳳高等学校
	高城 賢哉	教諭	新地高等学校
家 庭	目時 千夏	教諭	小野高等学校
	五十嵐 慶子	教諭	会津農林高等学校
情 報	高倉 聰	教諭	いわき光洋高等学校
	小野寺 充	教諭	船引高等学校
農業・水産	久保木 均	教諭	岩瀬農業高等学校
	齋藤 泰靖	教諭	会津農林高等学校
	坂井 聖治	教諭	磐城農業高等学校
工 業	木村 勝人	教諭	福島工業高等学校
	福田 俊彦	教諭	二本松工業高等学校
	永山 広克	教諭	郡山北工業高等学校
	鈴木 哲	教諭	会津工業高等学校
商 業	白坂 正広	教諭	福島商業高等学校
	車田 浩一	教諭	白河実業高等学校
定 通	戸田 徳恵	教諭	会津第二高等学校
学校保健	鈴木 二美恵	養護教諭	須賀川高等学校
	渡邊 純子	養護教諭	会津養護学校

(40名)

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

平成22年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

平成22年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏名	
会長	近藤	猛(橘)
副会長	鈴木	仁(安積)
副会長	渡部	裕一(会津)
副会長	山ノ内	壽太郎(磐城)
副会長	日下部	文紀(相馬)
監査	佐藤	静子(福西)
監査	星	浩次(福南)
事務局長	平岩	典男(福東)
支部		
支部	支部長	副支部長
県北	近藤 猛(橘)	岩渕 賢美(福商) 富田 昭夫(福島)
県南	鈴木 仁(安積)	杉 昭重(黎明) 遠藤 秀雄(郡山)
会津	渡部 裕一(会津)	秋山 芳廣(大沼) 新田 銀一(葵)
いわき	山ノ内壽太郎(磐城)	雪下 芳昭(湯本) 沼田 賢二(小浜)
相双	日下部文紀(相馬)	山崎伊佐夫(双葉) 遠藤 光(相東)

理事会

	氏名	
理事会	近藤 猛(橘)	富田 昭夫(福島)
	鈴木 仁(安積)	岩渕 賢美(福商)
	渡部 裕一(会津)	小澤 義喜(明成)
	山ノ内壽太郎(磐城)	本橋 信一(福工)
	日下部文紀(相馬)	渡邊 世子(郡養)
	平岩 典男(福東)	

専門委員会

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名	
管理委員会	◎青山 修身(修明)	○安藤 俊典(盲)
運営委員会	小澤 義喜(明成)	本橋 信一(福工)
	兼田 信男(郡北)	三瓶 准一(白河)
	渡邊 望(塙工)	緑川 孝夫(聾)
	大和田久男(若商)	佐藤 淳一(耶農)
	真部 知子(会養)	箱崎 温夫(海星)
	菊地惠美子(い養)	山崎 亨(相養)
	近藤 猛(橘)	

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名	
教育課題委員会	◎畠 惠治(南会)	○菅野 元一(岩農)
	菅田 健夫(保原)	鈴木 英雄(大笛)
	菅野 正行(田村)	渡邊 恵一(石養)
	神谷 仁(川口)	鈴木 則喜(平工)
	水野 晴夫(磐農)	鈴木 吉重(浪江)
	大関 彰久(富養)	鈴木 仁(安積)
生徒指導委員会	◎遠藤 光(相東)	○吉田会津夫(萌世)
	若林 吉男(福北)	湯田 恒弥(松工)
	丹藤 茂(あ開)	須田 晃雄(長沼)
	渡邊 世子(郡養)	荒井 一成(猪代)
	山崎 浩三(田島)	若菜 靖彦(猪養)
	鎌倉 雅臣(勿来)	根本 和次(勿工)
	渡部勢津子(翠杜)	佐藤 洋光(新地)
教育課程委員会	◎渡邊 州(梁川)	○二本松義公(相農)
	星 浩次(福南)	志賀 一成(須桐)
	柳沼 陽一(光南)	内田 貞俊(白実)
	高坂 均(幼養)	小浜宗一郎(喜東)
	鈴木 健司(只見)	本間 悅男(好間)
	田村 秀夫(遠野)	山ノ内壽太郎(磐城)
高校入試検討委員会	◎阿部 隆(清陵)	○菅野 誠(安達)
	古川 洋子(本宮)	坂爪 靖夫(湖南)
	青田 誠(船引)	高屋 隆男(須養)
	阿部 光成(西会)	秋山 芳廣(大沼)
	田辺 英憲(坂下)	鈴木 浩一(い総)
	雉子波敏司(四倉)	譽田 秀隆(富岡)
	小野寺典子(双翔)	日下部文紀(相馬)
大学入試対策委員会	◎玉川 一郎(郡東)	○佐藤 静子(福西)
	富田 昭夫(福島)	平岩 典男(福東)
	杉 昭重(黎明)	遠藤 秀雄(郡山)
	湯田 嘉朗(白旭)	新田 銀一(葵)
	荒井 光廣(学鳳)	村越 洋子(喜方)
	守谷 早苗(桜丘)	田代 公啓(光洋)
	雪下 芳昭(湯本)	山崎伊佐夫(双葉)
	八巻 義徳(原町)	渡部 裕一(会津)
就職指導対策委員会	◎東 陽一(郡商)	○羽二生幸雄(会工)
	岩渕 賢美(福商)	佐藤 和紀(川俣)
	滝沢 弘明(安東)	猪狩 幸一(須川)
	久保木勇三(石川)	原田 宏明(小野)
	小野 誠子(西養)	菅野 貴夫(喜桐)
	菅野 直芳(会農)	橋本 清輝(平商)
	沼田 賢二(小浜)	吉田 政勝(平養)
	斎藤 貢一(小商)	伊藤 裕隆(小工)

部会長

部会	氏名
普通部会	富田 昭夫(福島)
商業部会	岩渕 賢美(福島商業)
農業部会	小澤 義喜(福島明成)
工業部会	本橋 信一(福島工業)
水産部会	箱崎 温夫(いわき海星)
家庭部会	小野寺典子(双葉翔陽)
定通部会	吉田会津夫(郡山萌世)
特別支援部会	渡邊 世子(郡山養護)
理数部会	三瓶 准一(白河)
英語国際部会	星 浩次(福島南)
体育部会	菅野 正行(田村)
総合学科部会	柳沼 陽一(光南)
全国校長会	
部会	氏名
理事	近藤 猛(橘)
理事	鈴木 仁(安積)
理事	山ノ内壽太郎(磐城)
管理運営	青山 修身(修明)
教育課題	畠 恵治(南会津)
生徒指導	遠藤 光(相馬東)
教育課程	渡邊 州(梁川)
大学入試	玉川 一郎(郡山東)
就職対策	東 陽一(郡山商業)
同和教育	遠藤 光(相馬東)

役職名	氏名	所属校・職名
幹事	皆川 正信	〃 福島商業高等学校教頭
〃	白坂 正広	〃 福島商業高等学校教諭
〃	高橋 忠明	〃 福島商業高等学校教諭
〃	高原 清香	〃 福島商業高等学校実習講師

(イ) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	富田 昭夫	福島高等学校長	156
保健体育	鈴木 則喜	平工業高等学校長	250
理科	湯田 嘉朗	白河旭高等学校長	520
音楽	荒井 一成	猪苗代高等学校長	96
農業	小澤 義喜	福島明成高等学校長	236
工業	本橋 信一	福島工業高等学校長	453
商業	岩渕 賢美	福島商業高等学校長	364
定通	本橋 信一	福島工業高等学校長	156
英語	山ノ内壽太郎	磐城高等学校長	563
数学	鈴木 仁	安積高等学校長	533
家庭	羽二生 幸雄	会津工業高等学校長	177
美術工芸	原田 宏明	小野高等学校長	73

○会員数 3,577名

○平成22年度予算 8,906,793円

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(ア) 本部

平成22年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	岩渕 賢美	福島県立福島商業高等学校長
副会長	鈴木 仁	〃 安積高等学校長
〃	湯田 嘉朗	〃 白河旭高等学校長
委員	富田 昭夫	〃 福島高等学校長
〃	菅野 正行	〃 田村高等学校長
〃	小澤 義喜	〃 福島明成高等学校長
〃	本橋 信一	〃 福島工業高等学校長
〃	山ノ内壽太郎	〃 磐城高等学校長
〃	羽二生 幸雄	〃 会津工業高等学校長
〃	原田 宏明	〃 小野高等学校長
監査	佐藤 静子	〃 福島西高等学校長
〃	近藤 猛	〃 橘高等学校長

